

フィットセラピーによるハンドケアを用いた
糖尿病教育入院患者の
不安やストレス軽減への試み

生澤 由美子

医療法人財団 梅田病院





第25回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 COI開示

発表者名：◎研究代表者，共同研究者A，共同研究者B（全員の氏名）

演題発表に関連し、申告すべきCOI状態は
ありません。



研究課題の背景

糖尿病教育入院中の患者の現状

患者は病気に対しての不安や恐怖、
ストレスを抱えたまま教育指導を受けていた。

「退院してからの生活が不安です」



• フィトセラピーとは 植物を使った心身を癒す療法



- ハンドケアセラピーはフィトセラピーの手法の一つでありハーブオイルを使った手のトリートメントを行って

「よく聴く」「よく見る」「心を込める」ことで沢山の情報をキャッチし、情報の交換を行い、相手の心を開くことができる技術



研究目的

ハンドケアセラピーが糖尿病教育入院患者の自律神経系に作用し、不安やストレスを軽減できる効果がある



対象者

分析対象者3名の入院時状況

	年齢	性別	病名	入院時 HbA1c	長谷川式 簡易知能 評価 スケール	末梢神経 障害	入院前 治療	入院期間
A氏	72歳	男性	2型DM	10.7%	30点	有り	内服のみ	28日間
B氏	54歳	男性	2型DM	10.0%	30点	有り	Basal-Bolus	29日間
C氏	72歳	女性	2型DM	12.4%	29点	有り	内服のみ	29日間

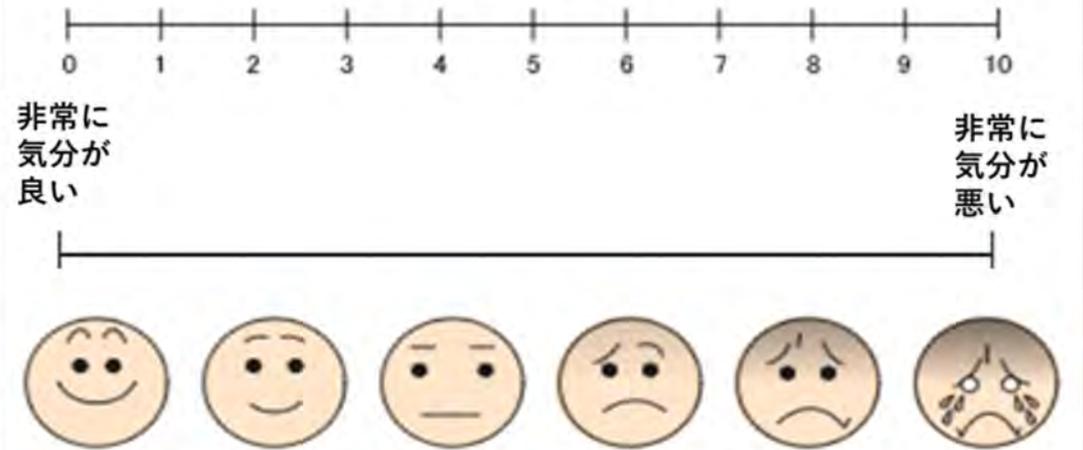


研究期間と方法

2019年6月から11月に入院された対象患者3名の入院期間中



気分スケール(VAS)

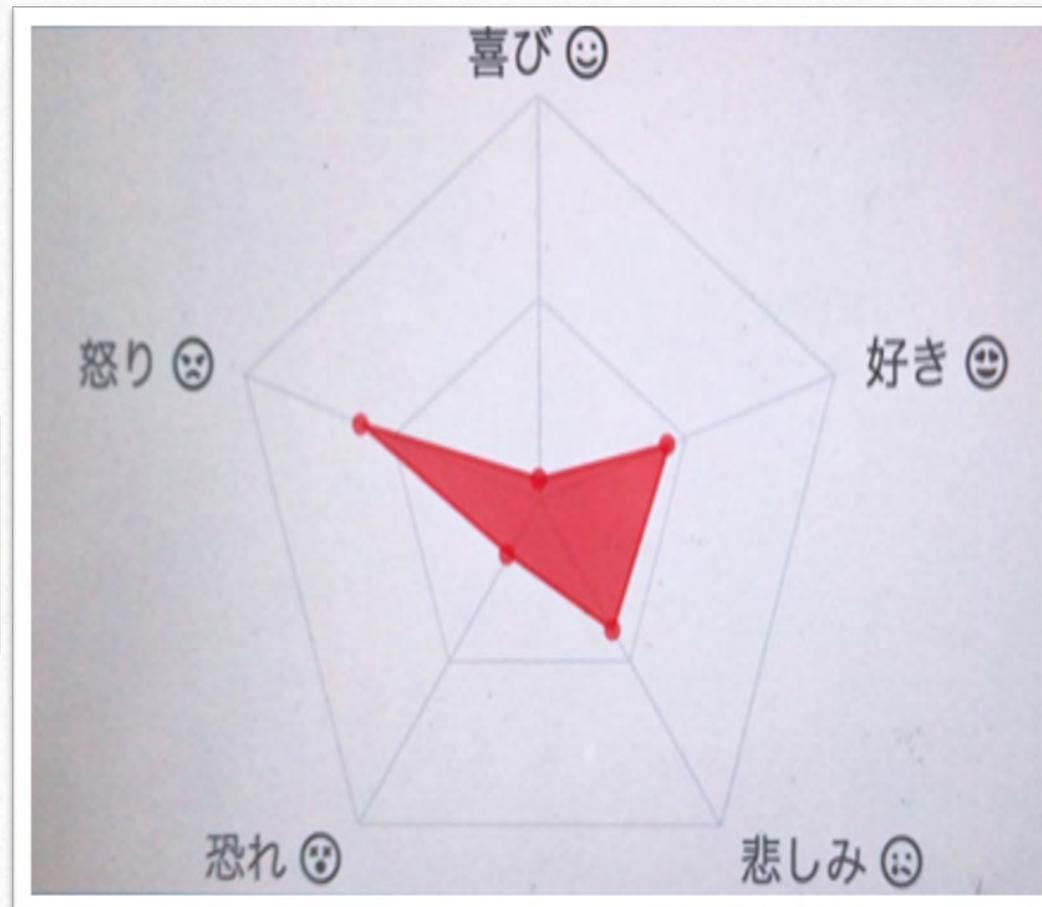
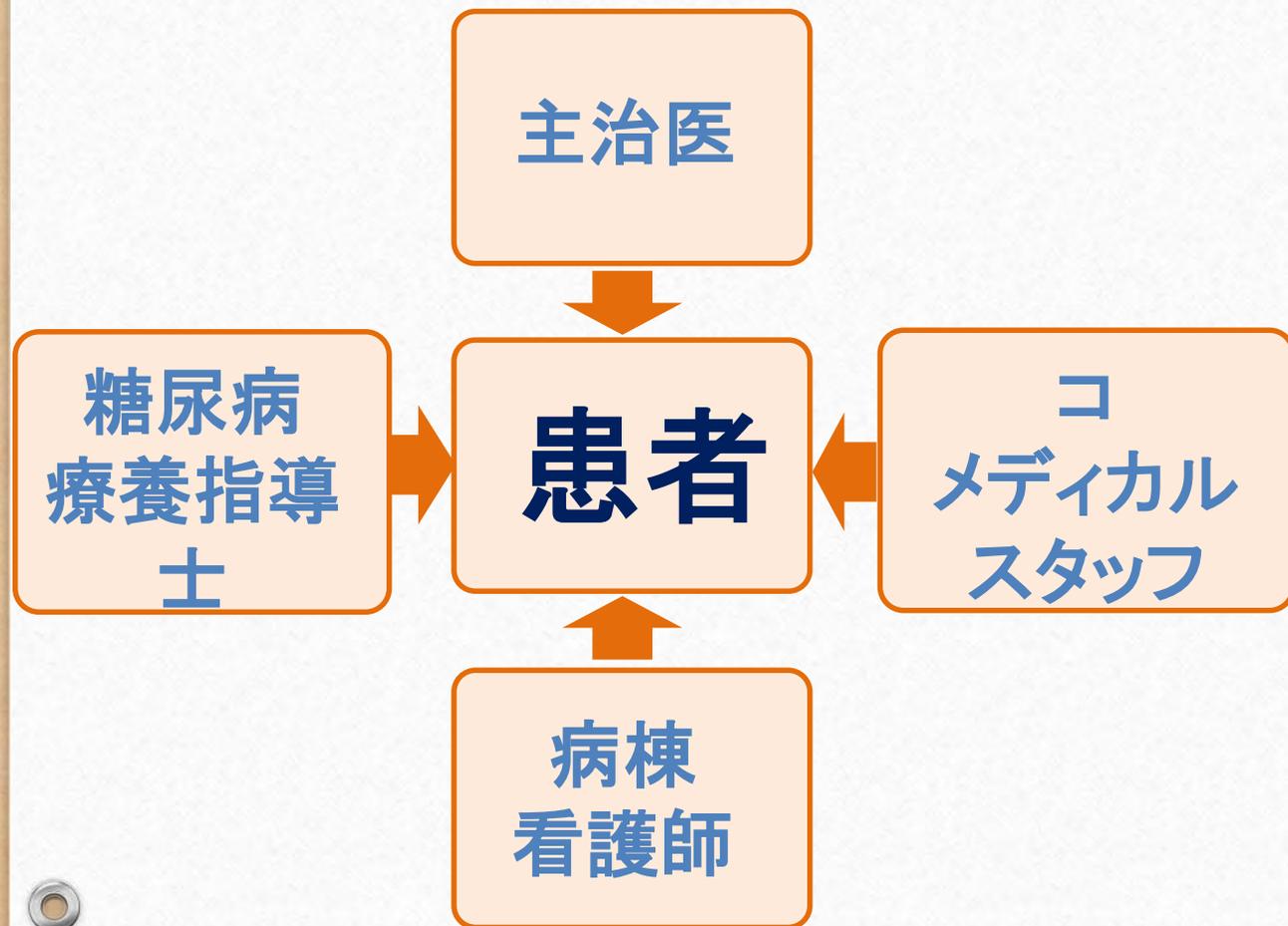


	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
A氏	4日目	7日目	18日目	25日目	28日目
B氏	4日目	14日目	18日目	23日目	28日目
C氏	4日目	7日目	11日目	16日目	24日目



データの収集ならびに感情分析の評価方法

テキストマイニング法による感情分析

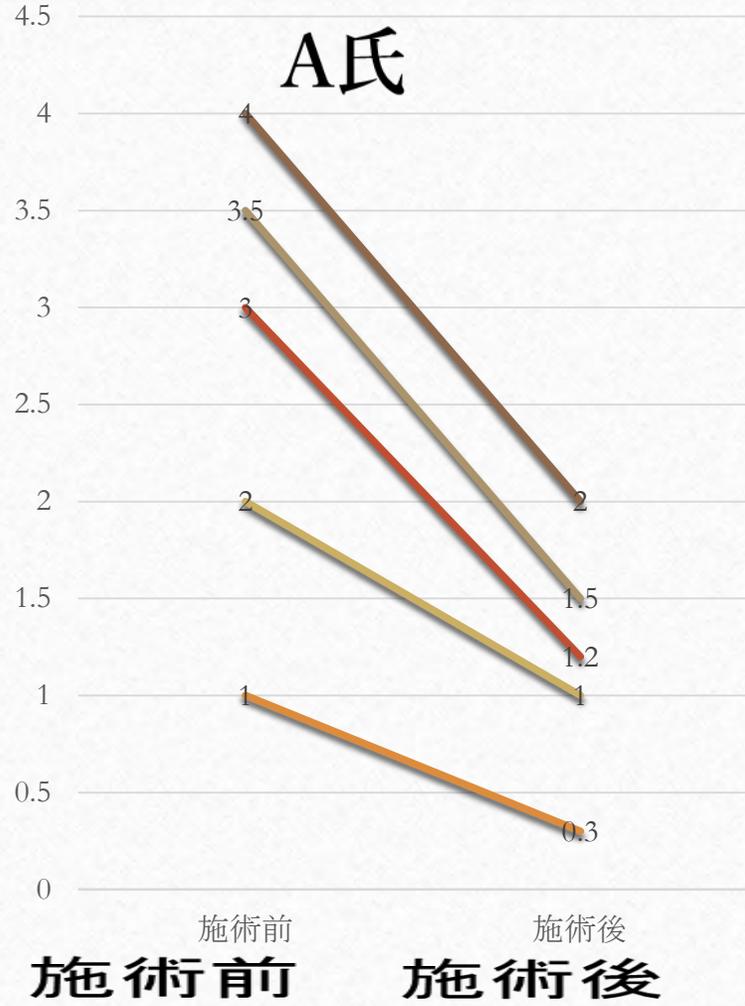


全ての会話から5つの感情を推定

ハンドケア施術前後の気分スケール(0から10まで) ウィルコクソン検定

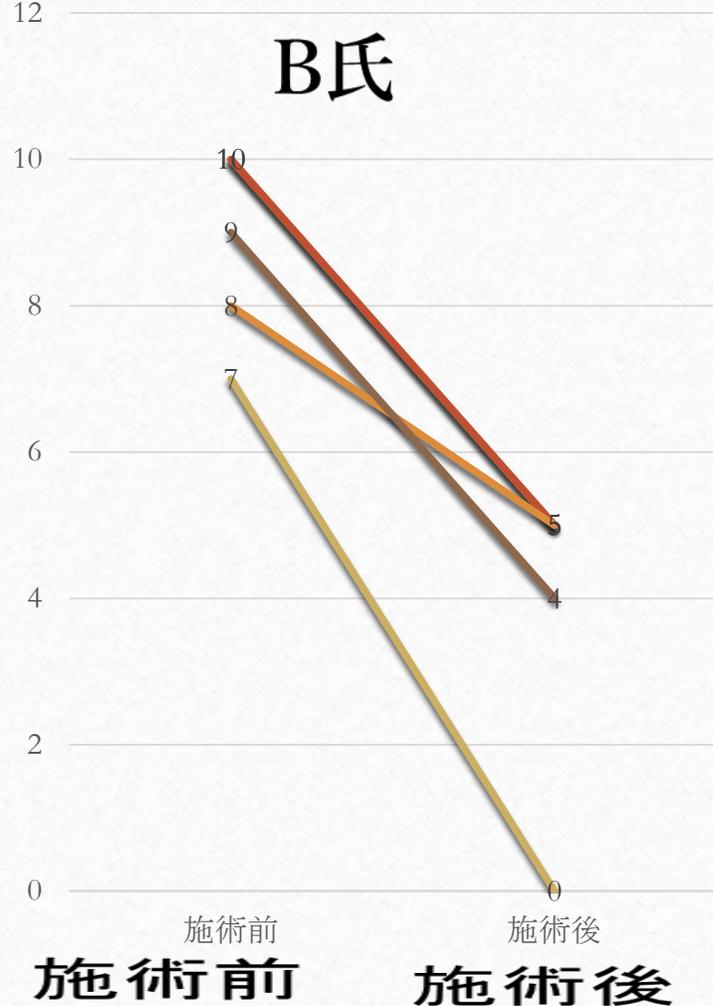
気分が悪い

気分が良い



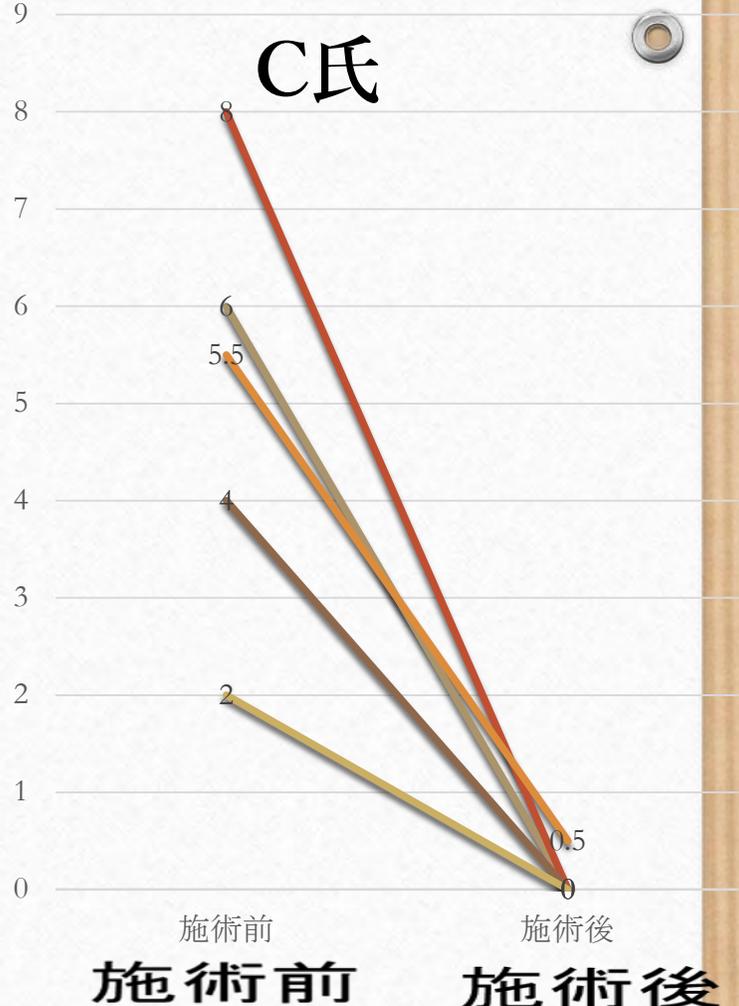
平均値	2.700	1.200
標準偏差	1.204	0.628

p= 0.043 有意差あり



平均値	8.800	3.800
標準偏差	1.304	2.168

p= 0.043 有意差あり

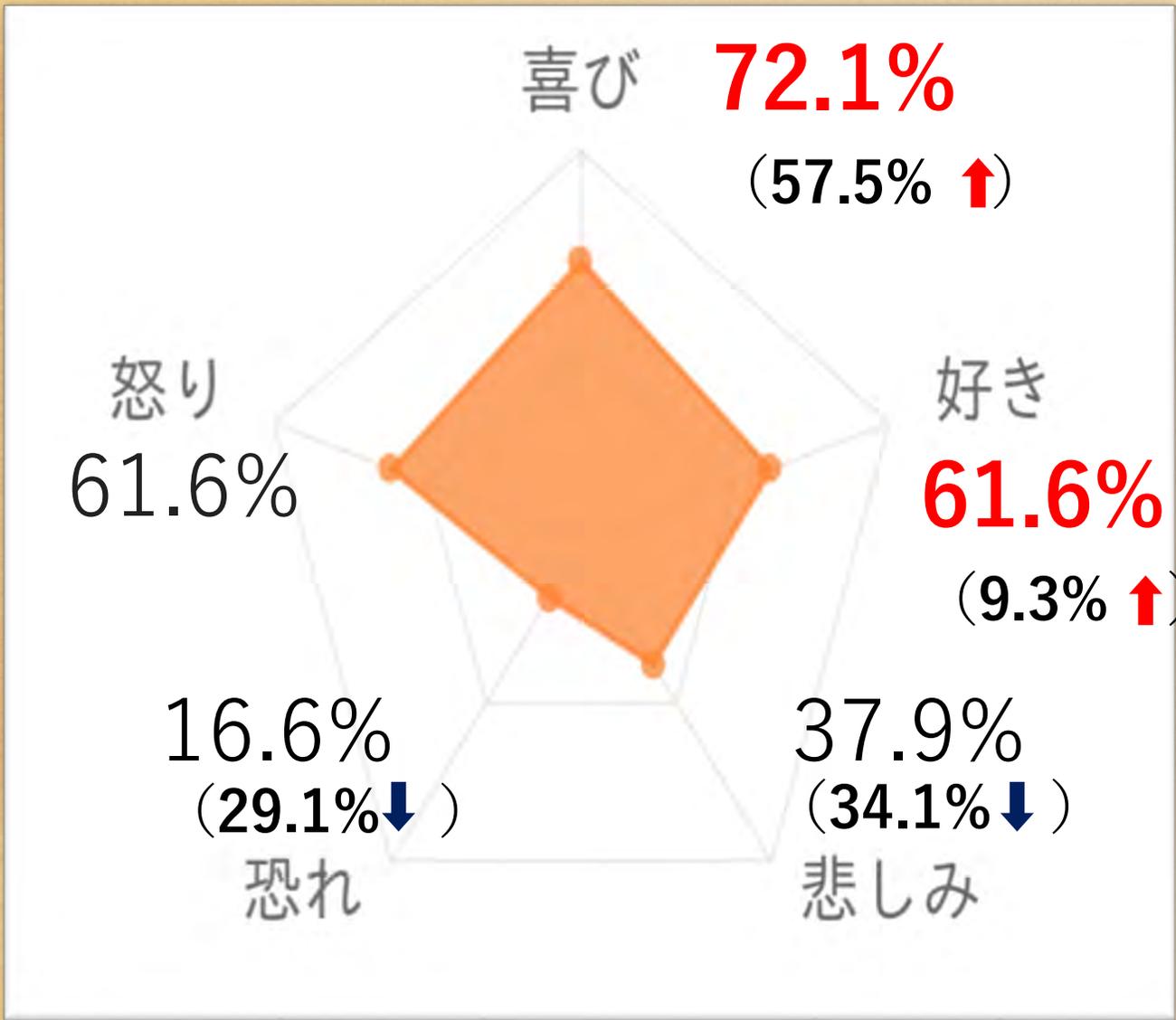


平均値	5.100	0.100
標準偏差	2.247	0.224

p= 0.043 有意差あり

B氏 入院14日目(2回目)ハンドケアセラピー中の感情分析

テキストマイニング法

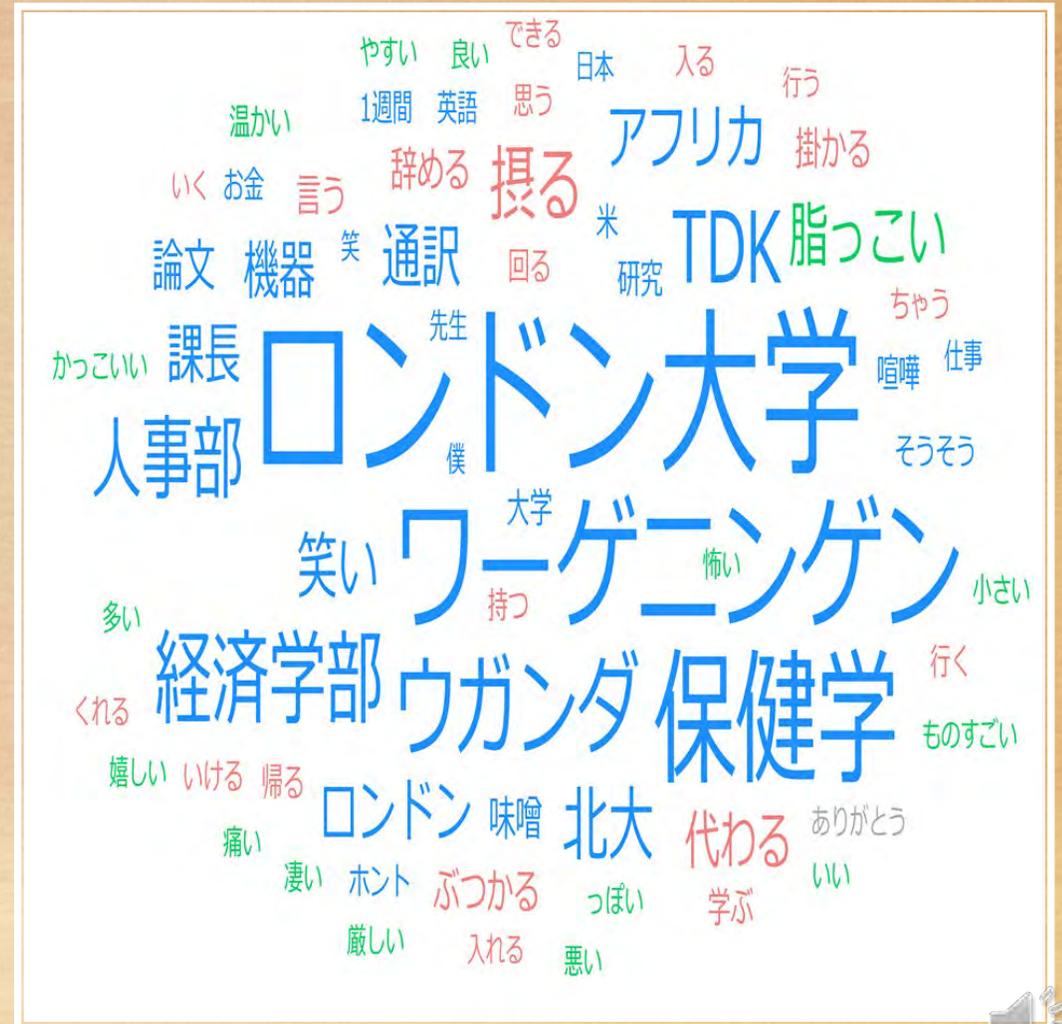
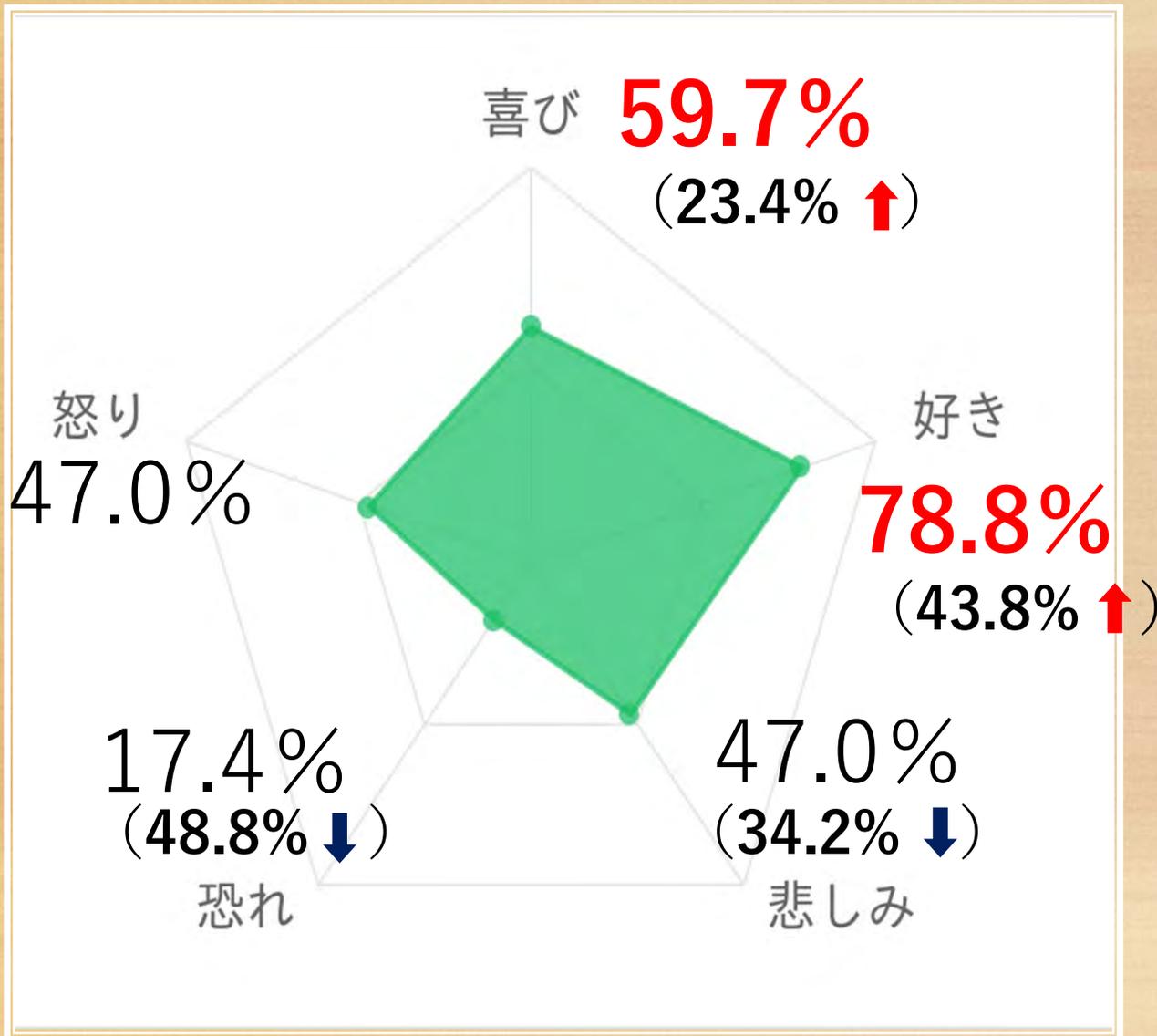


面倒くさい
社長 歩く 言う 食う
一緒 かわいい キャベツ お好み焼き 入院 売れる
ブラック・コーヒー 味付け かける
安い サーフィン ハイ 柔らかい 入れる
なっち ナンバー2 笑 てもみん 揉む ほしい
高い おまえ 前兆 海 久保田 嫁 知り合う 行く 入る
早い 出す エデアアイファミリー 顔 筋肉 ハワイ
効く 幸せ サーファー 買う
やうんだよ わかる ヶ月 30分 凝る 痩せる
飽きる シュガー ベトナム ありがとう 糖尿病 炒める
痛い 変わる 食べる 良い いい 若い 重い

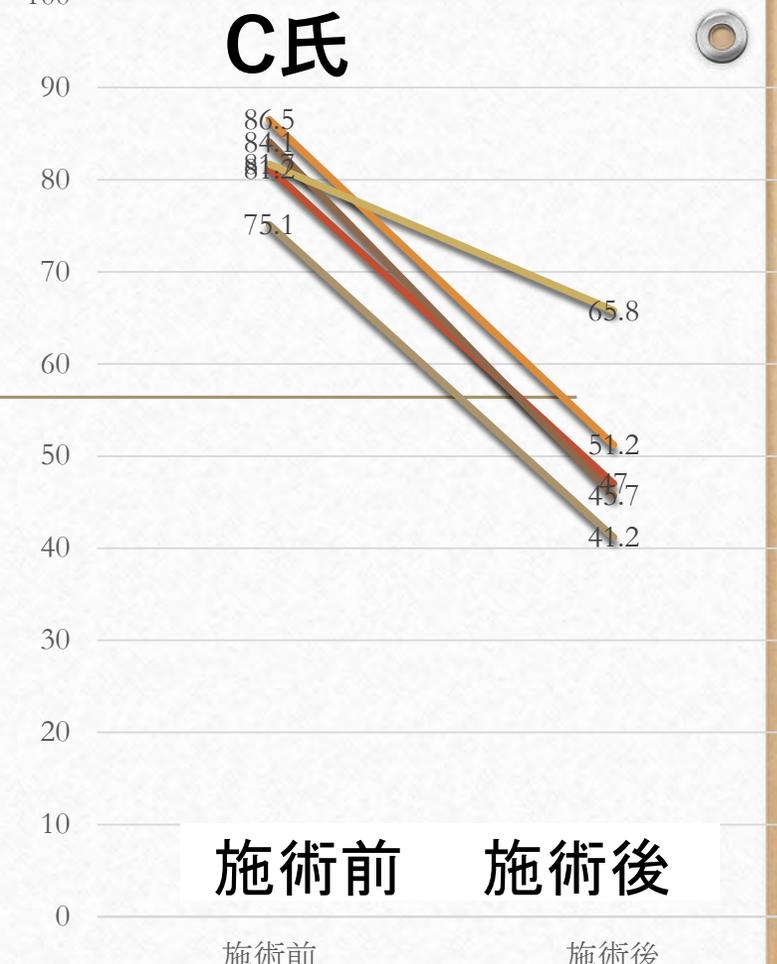
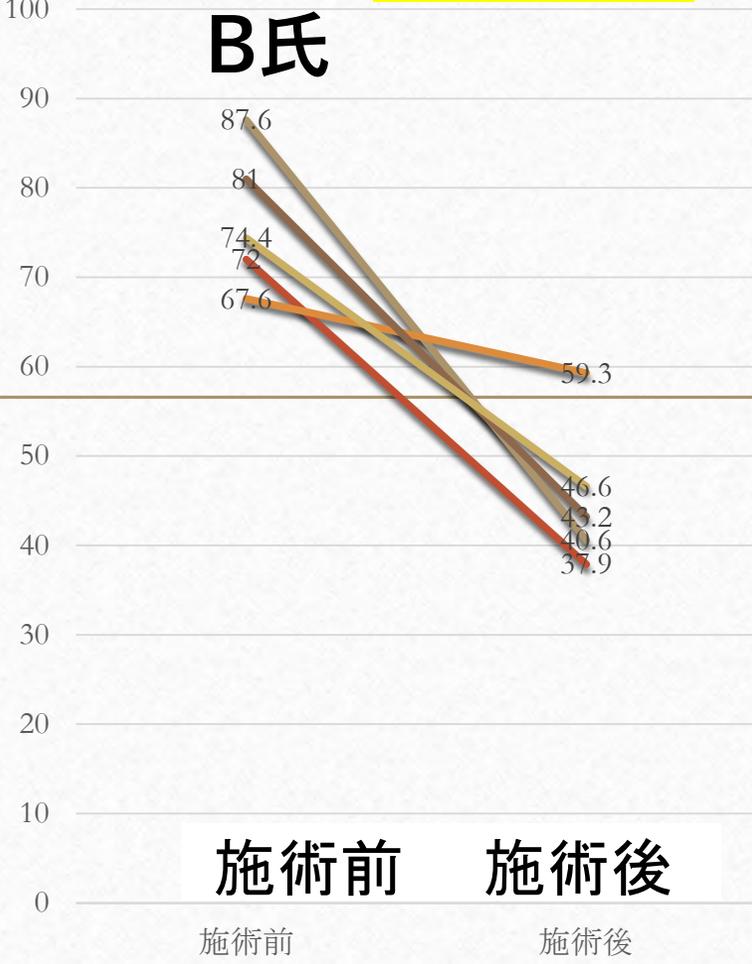
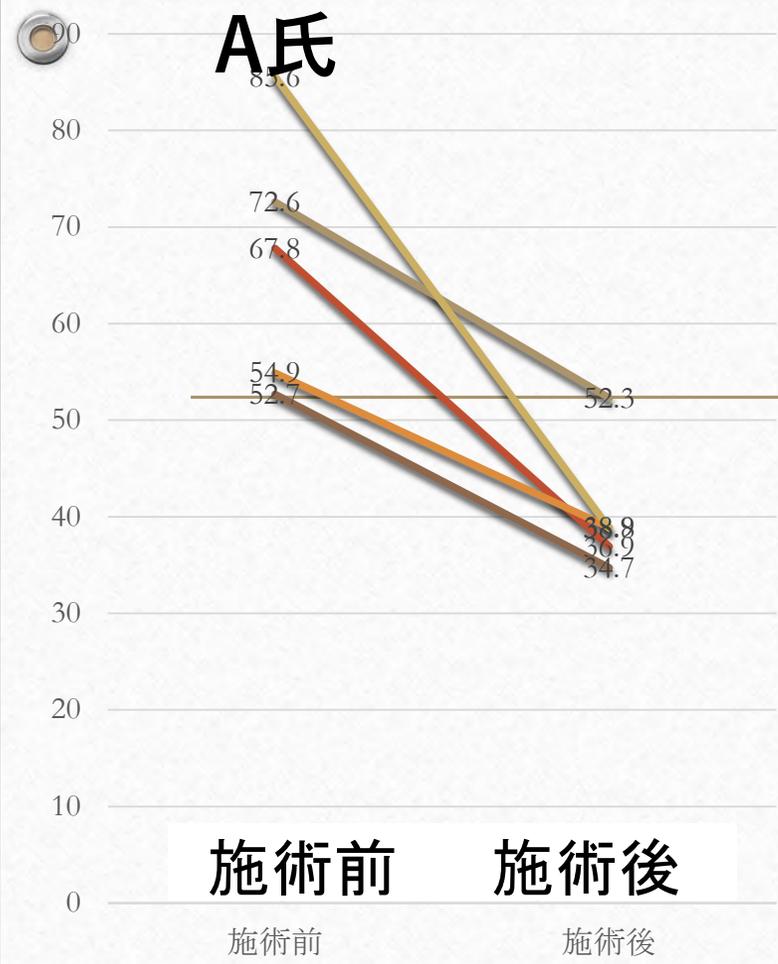


C氏 入院8日目(2回目)ハンドケアセラピー中の感情分析

テキストマイニング法



ハンドケアセラピー施術前後の感情(悲しみ)スケール(%) ウィルコクソン検定



	施術前	施術後
平均値	66.720	40.320
標準偏差	13.495	6.912

p= 0.043 有意差あり*

	施術前	施術後
平均値	76.520	45.520
標準偏差	7.863	8.347

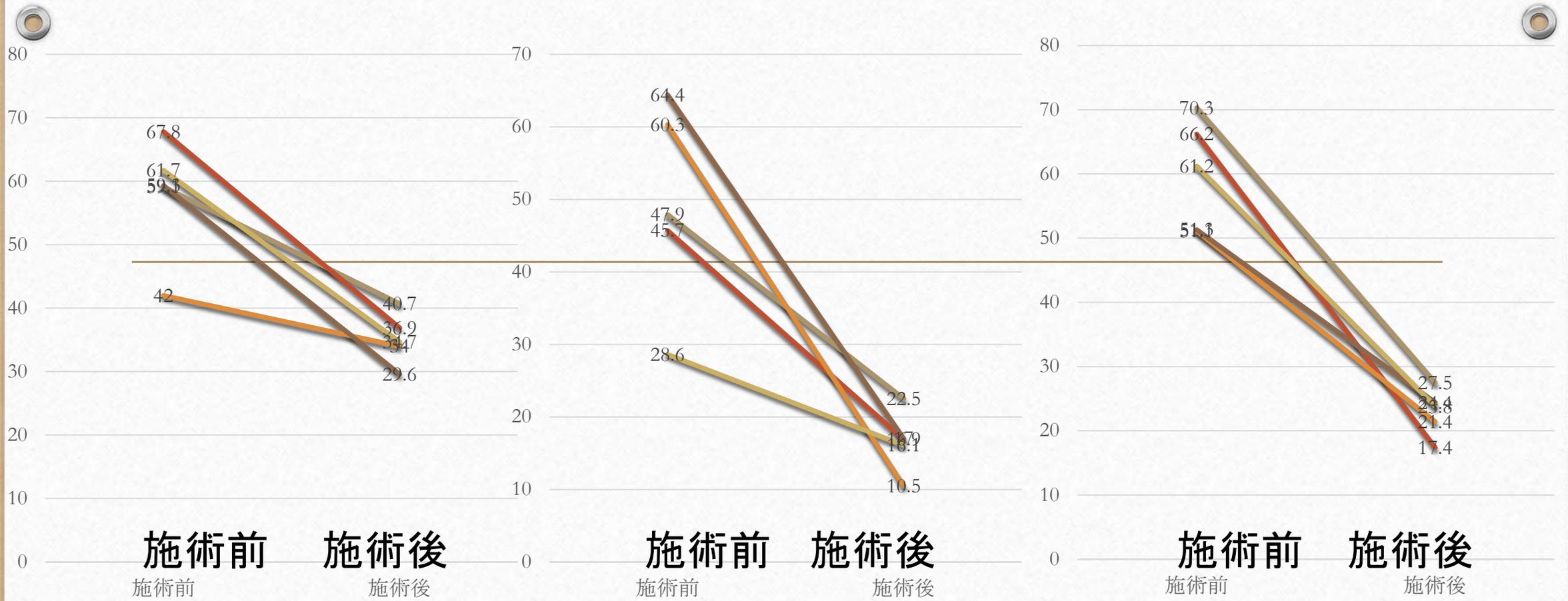
p= 0.043 有意差あり*

	施術前	施術後
平均値	81.720	50.180
標準偏差	4.261	9.432

p= 0.043 有意差あり*



ハンドケアセラピー施術前後の感情(恐れ)スケール(%) ウィルコクソン検定



	施術前	施術後
平均値	57.980	35.180
標準偏差	9.600	4.068

	施術前	施術後
平均値	49.380	16.600
標準偏差	14.075	4.258

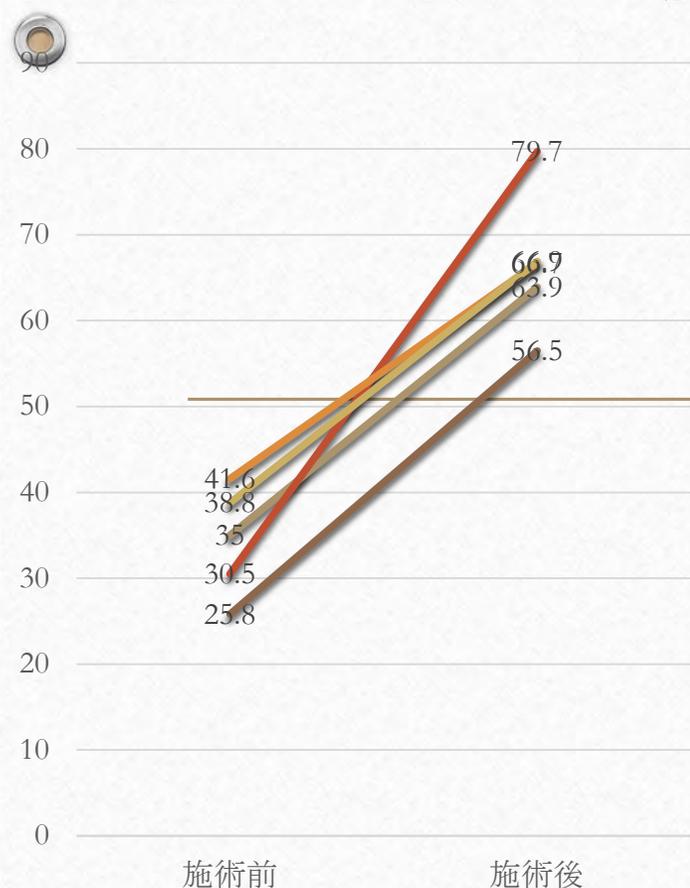
	施術前	施術後
平均値	60.020	22.900
標準偏差	8.673	3.766

$p = 0.043$ 有意差あり*

$p = 0.043$ 有意差あり*

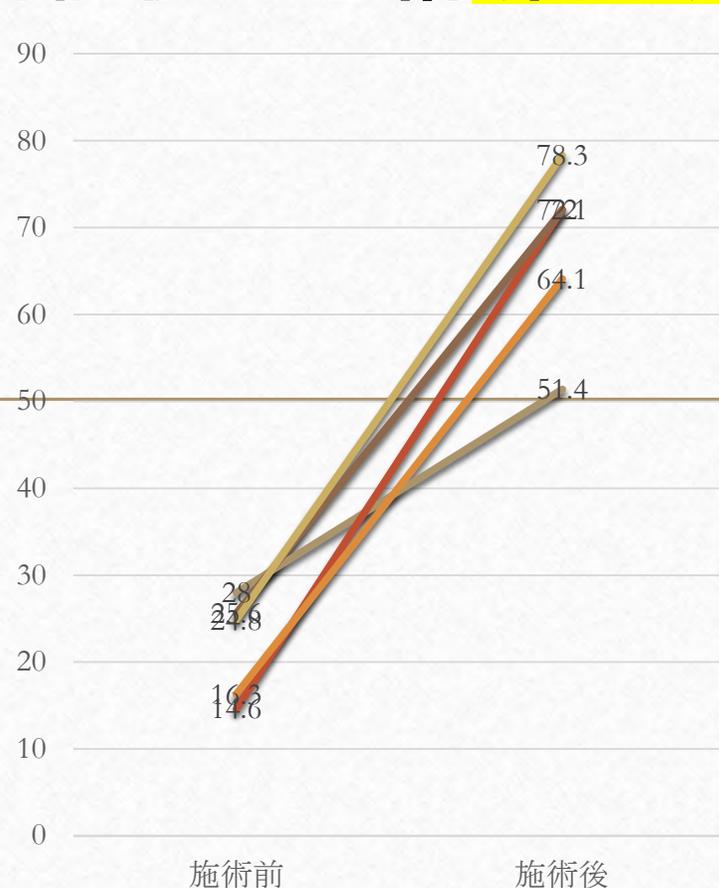
$p = 0.043$ 有意差あり*

ハンドケアセラピー施術前後の感情(喜び)スケール(%) ウィルコクソン検定



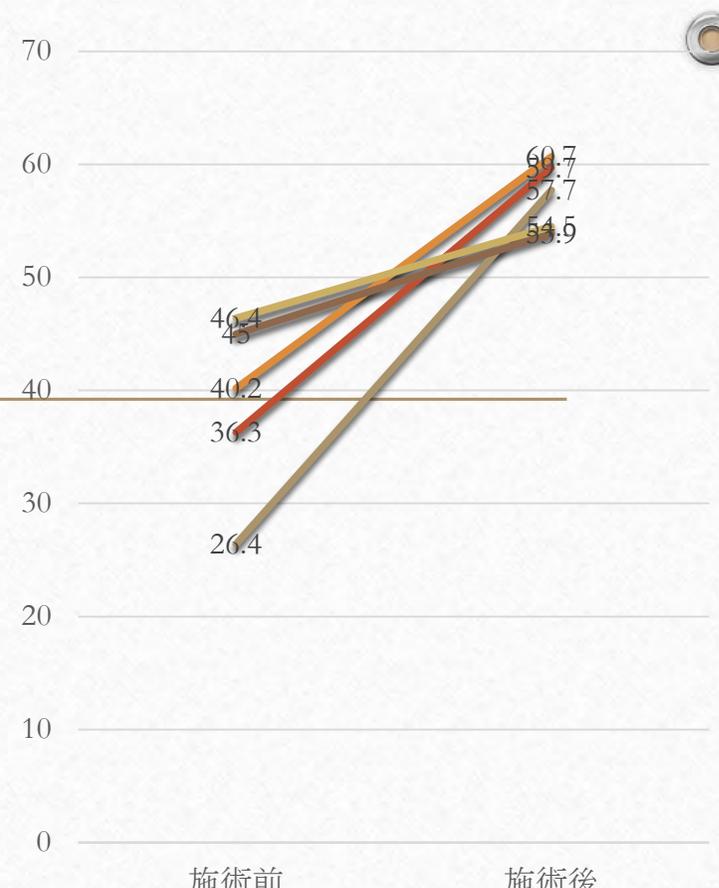
	施術前	施術後
平均値	34.340	66.740
標準偏差	6.339	8.380

p= 0.043 有意差あり*



	施術前	施術後
平均値	21.860	67.580
標準偏差	5.999	10.354

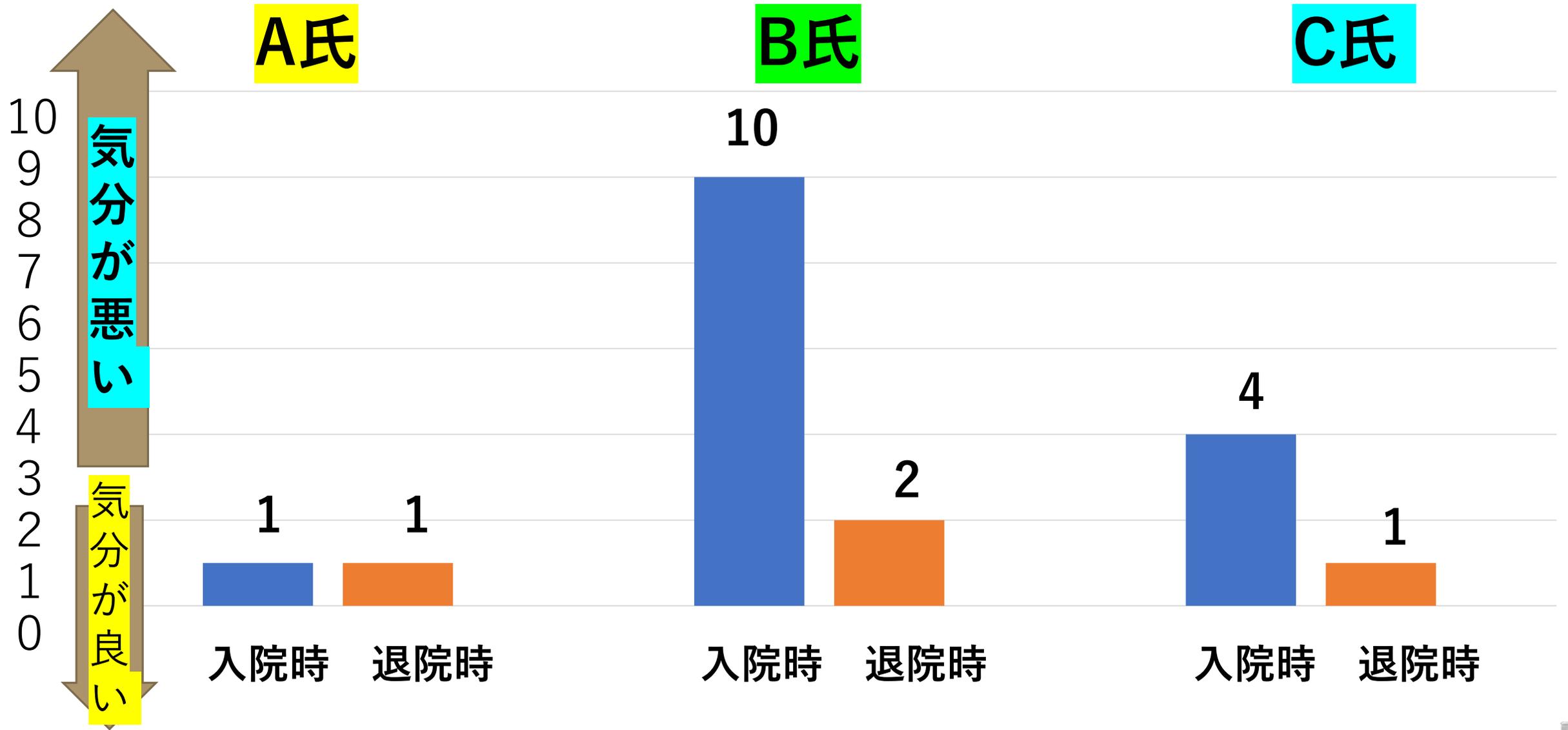
p= 0.043 有意差あり*



	施術前	施術後
平均値	38.860	57.300
標準偏差	8.034	3.036

p= 0.043 有意差あり*

入退院時の気分スケール値



① 毎日ジムで30分17-17PM



② 食事の量の加限!!
良かんて食べる

対象者3名の退院時目標

目標 血糖値を200以上にしない
(合併症予防のため)

1. 食事は作りすぎた時は、全部食べずに残し翌日にまわす。
2. 毎日、足の点検を行う。
3. 毎日、笑顔ととむたく楽しく過ごしていく。



安定した血糖値を維持

併発を合併症予防のため

① 食事の摂取順番を
サラダ、肉、ごはんの順番にする

③ 和菓子類の摂取をしない
塩分の抑えた料理を作る。

② 定期的な運動の遂行
目安 1日4,000歩

④ 血圧、体重測定を毎日
実行する。



考察

- ハンドケアセラピーを行うことは、良好なコミュニケーションに不可欠な自己重要感の向上にも貢献していると思われる。

桜美林大学の山口教授は「ハンドケアなど心地よい触覚刺激はオキシトシンの分泌を促すため、心理的には良好な気分への変化をもたらし、身体的には血圧の安定など生活習慣病の予防になる」と述べている。

- 今回の研究では被験者の気分変化という主観的な考察にとどまるが、施術によるオキシトシン分泌の可能性も考えられる。
- 精神的変化だけではなく、血糖コントロール改善に繋がる身体的変化の影響については、今後の課題である。

終わりに

◎ ハンドケアセラピーを通して

- ・患者の気持ちに前向きな言葉が聴かれ、治療継続の向上と自信へと繋がった。
- ・患者と良好なコミュニケーションを構築し、信頼関係を築いた結果、開かれた関係性による情報の交換、共有につながり、より良い質の高い看護が提供できた。



患者を支えていくために

- ・糖尿病教育プログラムの中でハンドケアセラピー
- ◎ を取り入れたpassを構築し心に寄り添う看護が必要。





引用・参考文献

1. 池田明子. 新版DVDつき心と体を癒す手のひらマッサージ. 株式会社主婦の友社, 2019, p.58-67
 2. 医療スタッフのための糖尿病情報BOX&Net.-No27.1.2011,
https://dm-net.co.jp/box/no27_b.pdf#search
 3. 佐藤利彦. Drサトーの糖尿病療養指導心得7か条. 株式会社メディカ出版, 2018, p.27-28, p.67-70
 4. 山口創. 手の治癒力. 株式会社草思社, 2016, p.96-99
 5. 山口創. ハンドマッサージによる健康な人の変化1 自律神経への影響.
一般社団法人日本ハンドケア協会, <http://handcare.or.jp/column.html>
- 

謝辞

- ご清聴ありがとうございました。

